

# 自分の生まれた場所・自分を育てた地域に自信をもって語れる誇らしさ

九度山町教育委員会（和歌山県）

## 1. はじめに

九度山町は、和歌山県北部に位置し、大台ヶ原を源とする紀ノ川の左岸に接している。「高野参詣道（町石道、黒河道）」「慈尊院」「丹生官省符神社」の世界遺産や戦国武将真田昌幸・幸村父子ゆかりの「真田庵」などの文化遺産と、「椎出の鬼舞」や「傘鉾」などの古くからの民俗芸能、玉川峡（県指定文化財）をはじめとする美しい自然に恵まれている。

また、特産品である柿は「日本一の富有柿」として有名である。

本町では、平成16年に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」を構成する参詣道の一つ「高野山町石道」が世界遺産登録されて令和6年7月7日で20周年を迎えました。その歴史・信仰・魅力について学校教育・生涯学習一体となり、未来につなぐ気運を高めました。



▲真田幸村 富有柿▼



## 2. 教育目標

### ●九度山町における学校教育目標

豊かな人格の形成を図ることを主眼として、人間尊重を基盤とした心のふれあう充実した教育を通して「生きる力」をはぐくみ、主体的に生きていく元気な児童・生徒を育てる。

- (1) 自己実現を目指し自立する子どもの育成
- (2) 人を思いやる心豊かな子どもの育成と自ら体を鍛える子どもの育成
- (3) 確かな学力と深い学びのできる子どもの育成
- (4) 共生と公共の精神に富み、社会の形成に主体的に参画する子どもの育成
- (5) ふるさと学習を通して地域の文化や伝統を重んじ、国際社会に貢献する子どもの育成

## 3. 教育委員会・学校での取組

### ●教育委員会と学校が一体となった取組（民泊行事・姉妹市町児童間交流）

小学校では高学年を対象に民泊・姉妹市町の児童間交流など、宿泊を含めた体験学習を行っています。

民泊家庭や姉妹市町の学校の児童の交流の場など、他の地域の方へふるさとのことを話したり、学習の内容を交流するなど設定しています。

ふるさと学習で地域の伝統や文化を知り、それを受け継ぐ地域の大人と関わりながら、ともにその環境をよりよくしていく豊かな人格の形成を図り、主体的に関わろうとする心の育成を学校教育・社会教育一体となって進めていきたい。



姉妹市とのオンライン交流の様子

### ●中学校における探究的な学び（地域学習）

小学校では実際に地域へ出て、地域に支えられ、地域で豊富な体験を重ねた子どもたち。中学生になると、より深く、現状を把握し、提案をしたり、地域が動いていることについても関心を持ち始めます。事前にもった問いを町役場や観光施設などを訪問し、町の文化や伝統、産業を守ることにについて、多角的な視点を持ちました。



### ●世界遺産学習（世界遺産 河根地域）

世界遺産の京大坂道が河根地区を通っており、その近くに自分たちの学校があることの素晴らしさや歴史的価値を知ることができた。また、河根地区の歴史や歩いて高野山に詣でた昔の人の気持ちを想像し、敬意を持つことができた。最後にその魅力を発信するために観光雑誌を作った。



### ●小学校における学び（地域学習）

～九度山小学校の取組～

1年生 ふるさと秋みつけ

2年生 町中探検

3年生 柿学習

4年生 地域の偉人

5年生 森林学習

6年生 真田祭・姉妹都市交流・世界遺産学習

県主催のふるさと学習大賞に作品を応募するなど、学校で一体となった取組がなされました。



### ●地域にある世界遺産・伝統（檀上伽藍・紙遊苑）

本や資料、インターネットでの事前学習から地域学習ならではの楽しさや新しい発見に出会える喜びを感じました。児童はさらに詳しく調べたり、疑問に感じたことを話しあったりする姿が見られました。



## 4. おわりに

子どもたちは、身近に世界遺産や文化遺産が豊富にあることを誇りにおmoi、そのよさの発信や課題の解決に向けた取組をおこなっている。地域は教育資源に恵まれ、また、地域や保護者も学校の教育に協力的である。子どもたちの豊かな人格形成を図り、主体的に生きていく元気な児童・生徒を育てるため、今後も、①地域や保護者に「どんな子どもを育てたいか」を共有すること。②社会の人・資源を教育に活用すること。③学校での学びを社会に生かすこと。を大事にしていきたい。社会に開かれた教育の充実を図ることが、本町の教育目標の達成につながることを期待しています。